

< 外来植物観察会 (2007. 9/1・2) >

市民によるタカサゴユリ・メリケンカルカヤの分布調査のため、周南市西緑地公園で説明会と観察会を実施した。



タカサゴユリの特徴の説明



メリケンカルカヤの特徴・見分け方の説明

< 市民による外来植物分布調査 >

- ・ 調査地区を各参加者毎に指定（自宅周辺・通勤路など）してもらおう。
- ・ その後、1/5000の地図を配布する。
- ・ 9月末までタカサゴユリ、10月末までメリケンカルカヤを調査し、マッピングする。



← 送られてきた地図

- 「いつもの散歩コースですが、楽しみながら歩きました。」という、うれしい便りも・・・。

< タカサゴユリ (*Lilium formosanum* Wall.) ユリ科 >

[観察会配布資料]

タカサゴユリ(シンテッポウユリ)の分布調査



* タカサゴユリの特徴 *

<タカサゴユリ *Lilium formosanum* Wall.> 台湾原産。わが国には1924年に導入され、庭園や切り花用に栽培されてきたが、種子の発芽から6ヶ月ほどで開花するため、近年各地で野生化して道端や堤防法面などで繁殖している。
 『日本帰化植物写真図鑑』(全農教出版)

<テッポウユリ *L. longiflorum*> (花期3~6月) 種子島・鹿児島に自生し、海岸近くの崖などに生える多年草である。ただ、もっとも多く栽培されているユリで、多くの園芸品種がある。
 『野に咲く花』(山と溪谷社)

<タカサゴユリの花>
 タカサゴユリは、花の横に茶色がかった線状の模様があります。真っ白な花のものもありますが、これはテッポウユリと交配されて造られた雑種です。実はさらに交配を続け雑種の雑種(?)ができていく可能性があります。園芸種として「テッポウユリ」を庭に植えている方もありますが、花期はだいたい6月ぐらいまでで、これはほとんど野生化しません。

<見分け方>
 「テッポウユリ」は、葉っぱが太く2~3cmありますが、「タカサゴユリ」は、葉っぱが細く0.5~0.8cmくらいですので、ここで見分けてください。花の高さは10cm程度の小さいものや、1m以上ある大きいものまであります。また、20cm程度で花をつけているものもありますが、50cm位あっても花のついていないものもあります。茎の太さも5mm~1.2cmなど様々です。葉っぱは互い違いにしていますが、大きい場合はかなり密集しているものもあります。
 ※ 花が終わっているものも多く見られますが、葉っぱで見分けて採ってください。

<問題点>
 1. 「タカサゴユリ」は百合根が残っていれば毎年出てきます。さらに1つの花に何千という種子ができて周囲に蒔かれますので、増殖するスピードがかなり早いです。また花期が長く冬季でも花をつけるため、これらの繁殖の早さは尋常ではありません。
 2. 美しいため除草されることが少なく、観賞用としても花壇に植えられることも多く見られます。道路の法面などは8月~9月にかけて真っ白になっている所も見られます。
 3. すでに、自然を保護したい場所や里山などへ侵入している可能性がかなり高いです。拡散を防ぐために、早急な調査と防除を考える必要があります。

<処置方法>
 とりあえず、花壇に植えている方は花を愛でたら種が出来ないようにすぐ摘んでください。
 数が多く発見された場合も、種ができないようにすべての花を摘んでください。
 1本程度で侵入したばかりの時に処置を施すしか有効な手段が今はまだありませんので、見つけたら掘り起こし必ずすべての百合根を取り除いてください。
 @注意@ 炭重にも重なっています。一つでも残ったら、翌年芽がでるので、全部掘ることが必要です。

<地図と記録用紙の記入の仕方>

1. 花を見つけたら、地図に番号を記入してください。
2. 記録用紙に番号を記入し、下記の例のように記入してください。

* 記入例 *

No	植生場所の状態								本数	高さ(cm)	花・蕾の数(本)	植生の状況メモ
	河川	路側帯	歩道	公園	花壇	庭	駐車場	その他				
1		○	○						6	30~50	0~1	サツキの植え込みの中に生えている
2							○		2	15~20	0~1	コンクリートの隙間に生えている
3				○	○				30	10~70	0~5	約1㎡範囲内で大小30本生えている
4						○			10	30~40	1~2	他にもナデシコなどが植えられている
5							○		1	40	2	コンクリートで固められている隙間に

<p>ロゼット (芽生え)</p> 	<p>つぼみ</p> 	<p>花</p> 
<p>種 1</p> 	<p>種 2</p> 	<p>種子がたくさん！！</p> 

タカサゴユリの生態調査



根っこの下に、ユリ根がある。
ユリ根も取り除く必要がある。
小さいかけらでも残ったら、
そこから芽が出てしまう。

↑残さないようザルを置いて作業



← 調査エリア(1m×2m)

全部で大小含めて30本

最小サイズ 茎径 3mm ユリ根 1.5×1.7cm ←最大サイズ 茎径 2cm



大親分のユリ根 8cm×10cm
から 14 個の子分が成長し、
新芽を出していた。
種でもユリ根でも増殖!!



アスファルトの隙間からも生えているタカサゴユリは、「根性ユリ」とか「1本で40個の花」とかよく紹介されていますが、冬の寒い時期にも咲いて、1年中種を蒔いています。隣の庭にあったのが、いつの間にか我が庭に咲いたりします。きれいな花を愛でたい気持ちはわかります。

花が終わったら種をもいで、できるだけ生育範囲が拡がることを防いでください